

令和4年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（京極幼稚園）

教育目標

遊びを楽しみ、心豊かにたくましく生きる子どもの育成

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和4年9月7日	京極幼稚園学校運営協議会
最終評価		

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・クラス、異年齢、未就園児、保幼小など、様々な子どもとのかかわりの中で、具体的な子どもの姿を記録し、『人とのかかわり』の視点で、さらなる保育の充実のために、教員同士で反省評価から、よりよい保育の手立てを考える。
- ・幼児が主体的に夢中になって遊びこめる生活や活動、行事について検討し、実践をし、次の取組につなげる。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿を見取る
- ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る
- ・アンケート

中間評価

各種指標結果

<ul style="list-style-type: none"> ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿を見取る ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD）
① 子どもは、幼稚園に親しみを感じ、安心して過ごしている。A65% B35% C0% D0%
② 子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じている。A76% B24% C0% D0%
③ 子どもは、先生や友達とかかわることを楽しんでいる。A62% B33% C5% D0%
④ 子どもは、自分の思いを話したり、友達の思いを聞いたりしている。A30% B60% C10% D0%
⑤ 子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる。A67% B33% C0% D0%
⑥ 子どもは、手洗い・消毒や身の回りの始末を自分でしようとしている。

A20% B70% C10% D0%

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>週案の振り返りが十分にできていなかった。</p> <p>アンケートにおいては、すべての項目についてA・B評価が多く、幼稚園の取組、子どもたちの育ちについての理解がなされていることが伺える。</p> <p>園内研修でも取り上げている人とのかかわりや友達とのつながりを大切にした保育については、友達とのかかわりを楽しんでいると捉えているものの、思いの伝え合いで難しさを感じているのではないかと思われる。</p> <p>自然とのかかわりや飼育、栽培活動については、高い評価となっており、自由記述でも、生き物とのかかわりが命の学びに役立つとの意見が見られた。</p> <p>手洗いや消毒などにおいては、コロナ感染防止の観点からもある程度の実践は見られるが、長期にわたる取組の中で、子どもの側にしっかりと必要感があるか、子どもたちのみならず、教職員にも気の緩みが出てはいないかという課題も見られる。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>保育の充実期である後期に、「楽しさ」だけではなく、友達関係の深まりや達成感・充実感を得られる保育を目指したい。中でも、友達関係においては、まずは自分の思いを相手に伝えたいという気持ちをもって表現できるよう、個々の思いを教師が丁寧に受け止め、共に考え、伝わる喜びを味わえるよう援助していく。週案に追記し、次の保育に生かす。</p> <p>また、生活習慣の確立については、今後も引き続き大切に取り組んでいく。身の周りの始末のような生活習慣については、保護者も教職員も、もっと自分自身でやろうとする力をつけさせたいと願っているので、家庭と協力・連携しながら取り組んでいきたい。</p>
学校関係者評価	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿を見取る ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る ・アンケート <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育に対する満足度は高いと思うので、このまま、取組を続けていってほしい。 ・生活習慣については、取組をすることだけではなく、無意識にできるくらいまで身につけることが大切である。必要性や意味をしっかりと確認し、子どもにも伝えていくことが大切だと思う。 ・学級担任だけではなく、補助の教員や他の教職員もしっかりと保育を見ているということを、もっとアピールしていくと良いと思う。

- ・園での生活や行事など、写真を通して見られることがアピールにつながる。
- ・母国語が日本語ではない子どもたちとのコミュニケーションが止まってしまうことのないよう、十分な配慮が必要であると思う。
- ・アンケート項目での評価だけではなく、こういうことに困っている、悩んでいるなど、保護者の思いがストレートに書かれている自由記述欄を大切にしていく必要がある。
- ・3年保育、4年保育が実施されている中、2年保育の難しさを感じる。2年保育でもしっかりと保育できているということや2年保育のメリットも伝えていくことも大切である。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(2) 幼小連携・接続について

具体的な取組

- ・保幼小で、交流についての年間計画やチーム分けを検討する。交流前後の打合せ時には、子ども同士の思い、子どもの姿の読み取りやねらいなどについての共通理解を大切にする。
- ・互いの保育や授業を参観する機会や研究の資料等の共有により、接続に必要な環境や援助を整理し、アプローチカリキュラムに活かす。
- ・日本語指導担当者と連携し、保育に活かす。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・年間交流計画の作成や京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流、作品展交流 授業参観、懇談会、合同研修会の実施回数。
- ・小学校と連携し、スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムの検討。
- ・就学前の情報交換（支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継）。
- ・アンケート

中間評価

各種指標結果

- ・年間交流計画を作成。
- ・京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流3回とその事前・事後研修実施、授業参観2回実施、保育参観1回来園、合同研修会1回実施。
- ・小学校と連携し、スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムの検討は後期実施予定。
- ・就学前の情報交換（支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継）は後期実施予定。
- ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD）

⑨幼稚園は保育所・小学校・中学校との連携を大切にしている。A67% B28% C5% D0%

自己評価

分析（成果と課題）

保幼小で年間計画を作成したことで、コロナ禍にあっても、交流保育や研修など計画的に実施することができ、また、交流保育の前後での打合せも毎回実施することができた。ただ、コロナ感染拡大もあり、鶴山保育所との交流はできなかった。

また、アンケート結果からは、全体としては高評価であったものの、年齢別に見ると、5歳児はほぼA評価であったことに対して4歳児ではB評価の割合が高く、保小との連携が見えにくい、伝えられていないという課題があると思われる。

分析を踏まえた取組の改善

小学校との連携・接続に関しては、後期も継続して取組を進めていきたい。同じ研修資料を聴講したうえで、幼小合同で研究協議を行う研修会の企画とその場への保育所への誘いかけを行っているので、それらの機会を通して、スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムの検討も実施していく。また、就学前の情報交換や幼稚園の研究保育の小学校への誘いかけを通して、今後、更に、教員同士の校種間連携も図ることができると思う。

また、コロナ禍で、以前に比べると、地域や他校種との連携の機会は減ってはいるが、感染症の状況を見ながら、活動や内容の調整、リモートでの交流等、工夫しながら実施していく。今後、それらの取組を伝える発信力を高めていく必要を感じる。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・計画に基づく京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流、作品展交流 授業参観、懇談会、合同研修会の実施回数。
- ・小学校と連携し、スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムの検討。
- ・就学前の情報交換（支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継）。
- ・アンケート

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・スムーズに小学校へ入学できるよう、今後も幼小の連携にしっかりと取り組んでほしい。
- ・保幼小のつながりがしっかりとできているのが嬉しい。コロナ禍でなければもっとできると思うと残念である。
- ・京極小学校との交流がしっかりとできていることは良いと思うが、地域の京極小学校以外の学校とも同じように交流ができていれば良いのにと思う。また、楽しいイベントとしての取組ではなく、意義や意味付けを確認していくことも大切だと思う。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

分析を踏まえた取組の改善

学校関係者

学校関係者による意見・支援策

評価	
----	--

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組

- ・一人一人の子どもが安心して参加できるように、教員同士の情報共有を確実かつ丁寧にし、必要に応じて教職員全体で子どもの安全を確保しながら見守るようにする
- ・異年齢、少人数だからこそできる活動や、語学ボランティアによる読み聞かせや、講師によるサッカーアクティビティやつくって遊ぶ活動など、特別プログラムも計画する。
- ・保護者のニーズに沿いつつ、子どもにとってよりよいかわりを共に考えていく。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返り、計画の修正。
- ・預かり保育の参加人数。
- ・アンケート

中間評価

各種指標結果

- ・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返り、計画の修正。
 - ・預かり保育の参加のべ人数（4月 142名 5月 161名 6月 153名 7月 171名 8月 106名）
 - ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD）利用者のみ回答
- ⑦ 子どもは、おひさま広場（預かり保育）の時間を楽しみにしている。A69% B26% C0% D5%

自己評価	分析（成果と課題）
	預かり保育の利用率は高く、保護者のニーズの高まりが実感される。保育終了後の子どもたちの遊びの場を保障すること、子育て支援・保護者の就労支援としての幼稚園の役割が大きくなっていると感じられる。中でも、サッカーや「つくってあそぼう」「いろいろな国の言葉で遊ぼう」など、イベントへの参加率は大変高く、今年度夏季休業中に実施した教育委員会主催の「英語に触れて遊ぼう」でも、多くの子どもが参加し楽しんでいた。
	分析を踏まえた取組の改善
	今後も、子どもの興味関心にあった活動を工夫し、異年齢のかかわりがより深まるような取組を継続していく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返り、計画の修正。 ・預かり保育の参加人数。 ・アンケート

学校関係者評	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな工夫がみられる。 ・イベントなどがあると良い刺激になるのではないか。

価	
---	--

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善

(4) 子育ての支援について

具体的な取組	
・ 0～3歳の未就園の親子のクラス、満2歳児親子が満3歳児クラスの子どもと関わって遊ぶ機会を定期的にもつ。	
・ 在園児の行事等に参加したり、在園児保護者との交流で子育てなどについて話したりする機会をもち、園の保育の雰囲気や良さを感じてもらえるようにする。	
・ 取組の様子をホームページ、チラシ、広報誌等でアピールしたり、小規模保育施設に働きかけたりすることで、より多くの親子に参加してもらえるようにし、入園者増加につなげる。	
(取組結果を検証する) 各種指標	
・ ほっこり子育てひろば実施時の保護者の思いや意見。	
・ 園庭開放や未就園児保育の利用者（登録者）数。	

中間評価

各種指標結果	
・ ほっこり子育てひろば3回実施。	
・ 未就園児保育の利用者（登録者）数。 3歳児うさぎ組5名、2歳児ぶちうさぎ組7名、0～3歳児ひよこ組23名（ぶちうさぎ組7名含む）	
自己評価	分析 (成果と課題) うさぎ組登録者は4名で始まったが、他園から1名入り、5名となった。うさぎ組は、欠席もほとんどなく、安定して通園している。ぶちうさぎ組は、7名の登録者があるが、全員がそろうこととは少なく、継続して通える工夫が必要である。また、ひよこ組はイベント時にはたくさんの参加者があるが、日常的には5名程度（ぶちうさぎ組も含めて）であることが多い。
分析を踏まえた取組の改善	
	来年度、うさぎ組の対象年齢であるぶちうさぎ組の保護者に対して、11月に「うさぎ組説明

	<p>会」を実施し、来年度の3歳児保育への登録を促す。また、ぶちうさぎ組で、後期から月間絵本を渡したり、欠席が続いている場合は電話等で個別に声かけをしたりなど、幼稚園に足が向くような取組をする。ぶちうさぎ組・ひよこ組の取組や行事の告知など、チラシの配布、ポスターの掲示、ホームページ等を通して、積極的に発信していく。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろば実施時の保護者の思いや意見。 ・園庭開放や未就園児保育の利用者（登録者）数。

学校
関
係
者
評
価

学校関係者による意見・支援策

- ・幼稚園の周りのフェンスに子育て支援等のチラシが貼ってあり、とても良い宣伝になっている。チラシにQRコードなどが記載されていることは効果的である。パッと見てわかる、見やすい（目を引きやすい）工夫をすると良い。
- ・地域の回覧板を活用することで、毎月、アピールすることができる。その際には、日程的な余裕が必要ではあるが。
- ・運動会など、未就園児に対してアピールできる場での内容などを工夫すると良い。
- ・子どもが少なくなっている現実は変わらないので、やはり努力が必要である。「京極幼稚園に通いたい」「京極幼稚園の保育を受けたい」と思えるにはどうすれば良いか。口コミの効果は高い。ネット検索をする際にも、口コミを参考にする保護者も多いと思うので、呼びかけてはどうか。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
学校関係者評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の持ち方、組織の充実を目指し、地域の環境や人材の活用に努める。 ・教育内容、未就園児教育相談や預かり保育の取組などについて、地域へのチラシ配布やポスター掲示等の協力を依頼し、乳幼児親子が集う場への積極的なアプローチにも努める。 ・KKPでの積極的な情報発信や共有に努め、地域の子どもたちのより良い育ちにつなげる。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を中心とした地域の声の聞き取り。 ・KKPへの参加回数及び教職員との情報共有の有無。 ・アンケート

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会での地域の声の聞き取り。 ・KKPへの参加打ち合わせ含めて3回。教職員との情報共有。 ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD） <p>⑧子どもは、近隣への遠足や、地域の方の保育参加を通して、京極地域に親しみを感じている。</p> <p style="text-align: right;">A52% B38% C10% D0%</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>学校運営協議会は、1回目を6月に実施し、顔合せとともに、本園の運営方針や年間計画など周知し、理解を得ることができた。9月に行った2回目には、評価についてのご意見もいただくことができた。</p> <p>コロナ禍で地域行事が少なくなっている現状はあるが、近隣地域への積極的な遠足などの実施から、アンケートでは比較的高評価であったと思われる。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>学校運営協議会では、出席率も高く、積極的なご意見もいただけているので、現状を大切にしながら継続的に取り組んでいきたい。また、近隣への遠足は、子どもたちにとっても保護者の方にとっても、京極地域に親しみを感じやすい行事であるので、引き続き大切にしていくとともに、行事のねらいや子どもの育ちなどをしっかりと発信していく。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を中心とした地域の声の聞き取り。 ・KKPへの参加回数及び教職員との情報共有の有無。 ・アンケート
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年ぶりに今年度復活した京極文化祭では、子どもの遊びのコーナーも新設するので、十分に周知し、楽しい地域『京極』を体感してほしい。体験することで、京極地域への愛着の思いも育っていく。また、そのような場で、京極幼稚園を広く地域にアピールできれば良いと思う。 ・写真やチラシなど、目に留まるものを掲示していくと良い。 ・京極地域からの運営協議会の理事が多いので、日ごろから情報が入りやすく、共有もできていって良いと思う。 ・KKPの取組で、幼児期に大切にしてきたことが中学校での教育にどのようにつながっていくかが理解できた。合同研修の大切さを実感する。

最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
自己評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>

学校関係者による意見・支援策

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標

教職員が心身共に健康で、互いに学び合い、高め合い、相談し合える風通しの良い明るい職場環境づくりをめざし、自らの働き方に関する意識改革を進める。

具体的な取組

- ・出退勤管理システムによる客観的な記録をもとに、よりよい働き方や適切な勤務時間を意識し、問題点について考え、改善策を探る。
- ・教職員に様々な勤務の形があり、全員が同じ時間帯にそろうことが難しいが、日頃から声を掛け合い、一人一人が欠かせない存在として認め合い、労い合い、尊重し合い、補い合うチームとしての意識を高め、業務にあたるようにする。コロナ禍、少ない園児数などの状況で、教職員の配置、役割分担など検討し、共通理解を図って取り組んでいく。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・教職員の勤務時間及び年休取得状況。
- ・前年度との比較検討。

中間評価

各種指標結果

教職員の勤務時間については、管理職・教諭等では昨年度と比較して超過している現状があり、その他の教職員では特に目立った超過は見られない。

分析（成果と課題）

小規模園においては、どうしても本務者に仕事が偏ってしまうことを避けることが難しいことが大きな課題である。働き方改革の一つとして始めた職員朝礼を週3回に減らす取り組みは、特に大きな問題も生じず、朝の保育準備等の充実につながっている。

分析を踏まえた取組の改善

どうしても時間外勤務が生じてしまう時期を除き、退出時刻を守れる状況にある教職員については退出時刻に園を出られるよう、また、それが難しい教職員においても18時過ぎには退出できるよう促すとともに、教職員の意識改革に努める。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・教職員の勤務時間及び年休取得状況。
- ・前年度との比較検討。

学校関係者による意見・支援策

- ・遅くまで電気がついている日が多く、気になっている。業務の見直しなどもっと効率が上がるような工夫が必要なのではないか。

価	
---	--

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策